

No.6 北東航路探検クルーズ 27日間 ※新コース

- 旅行期日：2021年8月16日（月）～9月11日（土）27日間
- 乗船地／解散地：アナディリ／ムルマンスク ●食事条件：朝食26回、昼食25回、夕食26回

- クルーズ代金（大人／お一人様） ※単位：米国ドル（US\$）

利用客船	アカデミック・ショカスキー	
旅行開始日	8月16日（月）	
旅行終了日	9月11日（土）	
日数	27日間	
客室タイプ	メインデッキ	21,900
	スーベリア	23,900
	スーベリア・プラス	26,900
	ミニ・スイート	27,900
	ヘリテージ・スイート	29,900
ローカルペイメント	500	
ノームからアナディリまでの片道チャーター機運賃	1,300	



（備考）ローカルペイメントは、ご乗船後、米国ドルの現金でお支払いいただけます。

- スケジュール

日次	月日（曜）	日程		食事	宿泊
1	8/16（月）	午前 夕刻	アカデミック・ショカスキーに乗船 アナディリを出港	○	船中
2	8/17（火）	終日	プレオブラジェニヤ湾観光	○○○	船中
3	8/18（水）	終日	ホエールボーン・アレーとギルミル温泉観光	○○○	船中
4	8/19（木）	終日	デジョニフ岬とウエレン村観光	○○○	船中
5	8/20（金）	終日	コリューチン島観光	○○○	船中
6	8/21（土）	終日	ウランゲリ島観光	○○○	船中
7	8/22（日）	終日	ウランゲリ島観光	○○○	船中
8	8/23（月）	終日	ウランゲリ島観光	○○○	船中
9	8/24（火）	終日	東シベリア海クルーズ	○○○	船中
10	8/25（水）	終日	アイオン島観光	○○○	船中
11	8/26（木）	終日	メドヴェジイ諸島観光	○○○	船中
12	8/27（金）	終日	東シベリア海クルーズ	○○○	船中
13	8/28（土）	終日	ニューシベリア諸島（ノヴォシビルスク諸島）観光	○○○	船中
14	8/29（日）	終日	ニューシベリア諸島（ノヴォシビルスク諸島）観光	○○○	船中
15	8/30（月）	終日	ラプテフ海クルーズ	○○○	船中
16	8/31（火）	終日	ラプテフ海クルーズ	○○○	船中
17	9/1（水）	終日	セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○○○	船中
18	9/2（木）	終日	セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○○○	船中
19	9/3（金）	終日	セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○○○	船中
20	9/4（土）	終日	カラ海クルーズ	○○○	船中
21	9/5（日）	終日	カラ海クルーズ	○○○	船中
22	9/6（月）	終日	フランツ・ヨーゼフ諸島観光	○○○	船中
23	9/7（火）	終日	フランツ・ヨーゼフ諸島観光	○○○	船中
24	9/8（水）	終日	フランツ・ヨーゼフ諸島観光	○○○	船中
25	9/9（木）	終日	バレンツ海クルーズ	○○○	船中
26	9/10（金）	終日	バレンツ海クルーズ	○○○	船中
27	9/11（土）	午前	アナディリ入港／下船 ※下船後、市内のホテル或いは、空港まで無料送迎いたします。	○	

※往路、アラスカのノームからアナディリに向かう場合、日付変更線の関係でノーム発は8月15日（日）発となります。

●詳細日程

第1日目 アナディリにて乗船/出港

チュクチ自治管区の政治と商業の中心地で州都のアナディリに到着し、港へ送迎いたします。午後、アカデミック・シヨカスキーに乗船。

夕刻、出港する際、ペルーガを見られるかも知れません。

第2日目 プレオブラジェニヤ湾観光

午前、船内生活や野生生物の観察をお楽しみください。

午後、ソディアッククルージングでプレオブラジェニヤ湾沿岸の崖を探索する予定です。これらの崖には、ハシプトウミガラスやエトロフウミスズメ、ウミオウム、エロピリカ、ツノメドリなど多様性に富んだ多くの海鳥が繁殖しています。

第3日目 ホエールボーン・アレーとギルミミル・ホットスプリングス観光

北極で最も興味深い遺跡の一つでもあるイティグラン島のホエールボーン・アレー（クジラ骨小路）を訪れます。この名前は、海岸沿いに配置された多数のホッキョククジラのおごの骨から来ています。この小路は14世紀につくられたものと推測されています。

近くの海域はクジラの豊富な餌場となっていて、天候が許せばソディアッククルージングでクジラとセイウチの探索を予定しています。

午後、チュクチ半島東部の奥深くに位置するギルミミル・ホットスプリングスへの上陸を予定しています。ツンドラの大地を探索しながら、豊かで美しい植生とこの地域で繁殖するカナダツルを観察する予定です。

第4日目 デジニョフ岬とウエレン村観光

早朝、アジアとユーラシア大陸の最東端でもあるデジニョフ岬に到着します。この岬はベーリング海峡を航行した最初のヨーロッパ人でコサック探検家のセシオン・デジニョフに因んで名付けられました。晴れた日には、岬から僅か93kmしか離れていないアメリカ大陸の海岸線を見ることが出来ます。上陸して記念碑を訪れ、1950年代に住民が再定住した伝統的なチュクチ村のナウカン遺跡も訪れる予定です。

ベーリング海峡は渡り鳥にとって重要な飛翔ルートで、ケワタガモやホンケワタガモ、メガネケワタガモの群れが南に向けて飛翔するのをご覧いただけるかも知れません。デジニョフ岬の西、数kmにはロシア最北東のウエレン村でチュクチを中心とした地元の人々のおもてなしをお楽しみください。この村は世界で最も伝統的なチュクチとイヌイット芸術の中心地です。文化的なパフォーマンスの観賞とセイウチの牙彫刻のスタジオと博物館の訪問を予定しています。

第5日目 コリューチン島観光

早朝、スウェーデンの探検家、アドルフ・エリック・ノルデンショルドが1878年に越冬した場所の近くを通過します。ロシア本土のすぐ北に位置し、何千羽もの海鳥が営巣する長さ4.2kmのコリューチン島に上陸する予定です。繁殖期のピーク時を過ぎてから訪れることとなりますが、エトピリカやツノメドリ、ハシプトウミガラス、ウミガラス、ミツユビカモメはまだ沢山見られるはずです。ソディアックボートで崖の周囲のクルージングを予定しています。ウラング島に向けて航行する際、ザトウクジラとホッキョククジラを観察する事ができました。

第6～8日目 ウラング島観光

ロシア連邦自然保護区で、ユネスコの世界自然遺産にも登録されています。最後の氷河期にも氷河化されなかった北極の数少ない地域の一つです。ホッキョクグマの繁殖地であり、ここで生まれた子供の数が多いため、ホッキョクグマの産科病棟と形容される事もあります。ホッキョクグマの他にもこの島で繁殖するジャコウウシやホッキョクギツネ、ハクガン、シロフクロウなどを観察する事ができます。ツンドラの植物相の多様性は並外れて優れており、上陸中に夏の最後の花々をご覧いただけるでしょう。

第9日目 東シベリア海クルーズ

専門講師が北東航路の豊かな歴史と野生生物についてレクチャーします。この海は西のニューシベリア諸島と東のウラング島によって囲まれ、その南岸に沿ってシベリアの3つの主要な河川、インディキルカ川、アラゼヤ川、コリマ川が流れ込んでいます。平均的な水深は僅か54mで、セイウチやクジラの生息地として理想的な海となっています。

第10日目 アイオン島観光

コリマ湾の東側に位置し比較的低地で肥沃なツンドラに覆われています。この島を故郷と呼ぶチュクチ族の人々は、トナカイ遊牧民とハンターです。ソビエト時代には2万頭ものトナカイがこの島で飼われていましたが、現在は4千頭ほどです。過酷な北極圏の気候にもかかわらず、この遠く離れた島での生活について学ぶと同時に地元の人々の温かいおもてなしを楽しみます。

第11日目 メドヴェージェイ諸島（ベア諸島）観光

ほとんど知られてなく、めったに人間が訪れる事もない、花崗岩からなる5つの群島のメドヴェージェイ諸島（ベア諸島）を探検します。名の通り冬の間、これらの島々の崖に巣を作る多くのホッキョクグマがいます。チェティリヨフストルボヴォイ島の上陸では、遠くから見るとモアイに似ている珍しい岩「ピロース」へのハイキングを予定しています。永久凍土が解けてゆっくりと海に流れ落ちる様や、永久凍土の上に建つ気象観測所が、ゆっくりと崩

壊する様子が見て取れます。オストロフ・ブシュカレヴァ島では、古い灯台の見学や広大なツンドラに咲き誇る北極の花々をお楽しみいただけます。

第12日目 東シベリア海クルーズ

1879年、ジャンネット号は東シベリア海で氷に捕まり漂流し、氷に押しつぶされ沈没したところでした。乗組員達は、救命ボートでコリマ川のデルタ地帯まで辿り着きましたが、そこで多くの人が死んでしまいました。ジャンネット号の残骸は1884年にグリーンランドで発見されました。この発見は、1893～96年のフリチョフ・ナンセンの北極海を横切って漂うフラム号探検に重要なヒントを与えてくれました。

第13～14日目 ニューシベリア諸島（ノヴォシビルスク諸島）観光

主に南部（リャーホフスキー諸島）と中部（アンジュー諸島）、北部（デ・ロング諸島）からなる3つの主要なグループで構成され、ラプテフ海と東シベリア海の境界となっています。有名な極地探検家兼研究者フリチョフ・ナンセンが、北極海の流水に密閉されて漂流しながら北極点に到達しようとした探検で、フラム号を流水に浮かべたのはこの辺りでした。ここはマンモスやサイ、その他の極北の更新世の動物の化石の宝庫で有名です。島の探検中に化石を発見する事は、珍しい事ではありません。条件が許せば3つの主要なグループの島々を訪れ、ユニークな地質や風景などを探索する予定です。グループの中で最も標高の高い島は、群島の最も北にあるベネット島です。グレート・リャーホフスキー島の南岸には、活動中の気象観測所があり、僅かな職員が常駐しています。

第15～16日目 ラプテフ海クルーズ

ロシアの探検家ラプテフ従兄弟を称えて名付けられたこの海にはレナ川とヤナ川の2つの大河が流れ込んでいます。ラプテフ海の西側に沿ってタイミル半島を探索する予定です。

ラプテフセイウチは、ラプテフ海のみで生息していて、この海域でしか見られません。このユニークで完全に隔離されたセイウチの個体群を撮影したいと考えています。あまり知られていないセグロカモメも見られるチャンスがあるかも知れません。ラプテフ海からヴィリキツキー海峡を通して、ユーラシア大陸最北の地点を通過します。太平洋と大西洋の野生生物の間の生物学的な分水嶺とも言えます。

第17～19日目 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光

北方の土地の意味を持つこの諸島は、1913年、地球上でもっとも遅く発見された群島で、当時は一つの大きな島だと考えられていましたが、多くの島から成ることが次第に明らかになりました。3つの大きな島々は多くの氷層で覆われ、雄大な氷河と深いフィヨルドは壮大です。ゾウゲカモメの一大営巣地となっていて見学する機会があります。

第20～21日目 カラ海クルーズ

ロシアの大河、オビ川とエニセイ川が流れ込み、ロシアで最も冷たい海と考えられています。1930年にウラジミール・ヴィゼによって発見された大きくて平らなヴィゼ島があり、状況が許せば上陸を試みます。

第22～24日目 フランツ・ヨーゼフ諸島観光

北緯80～81.9度に位置し192の島々からなるこの群島は、数多くの探索場所があります。何十年もの間、部外者に閉鎖され、現在では北極圏の野生生物保護区の一つとなっています。北極海の永久氷に近い位置にありながら大西洋の豊かな海に近いため、豊富な海洋生物が生息しています。この諸島は、1873年、北東航路探検中にオーストリア・ハンガリー帝国探検隊が発見し、時の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世に因んで名付けられました。探検や科学研究、住居について魅力的で豊かな遺跡が残っています。次のような上陸地を予定しています。

悪魔の大理石（石球）が点在するアルジェ島のトリエステ岬。3つの歴史的な探検隊の足跡が残るノースブルック島のフローラ岬。膨大な数のウミガラスとミツユビカモメが営巣している円柱状の断崖、ルビニ・ロックがあるフッカー島のディカヤ湾。さらに、この諸島を最初に発見したテグトフ岬を訪れる予定です。この群島には多くのホッキョクグマが生息していますので、観察できるチャンスがあります。また、航行中には、ペルーガやホッキョククジラに遭遇する可能性があります。幸運であればユニコーンのような単一の角を持つイカクジラに出会うかも知れません。

第25～26日目 バレンツ海クルーズ

1594年と1596年の2度にわたりこの海域を探検したオランダの航海士で探検家のウィレム・バレンツに敬意を表し命名されました。南に向かうにつれ、探検中の多くのザトウクジラやタテゴトアザラシを見られるでしょう。ムルマンスクに近づくると伝説の北東航路の旅も間もなく終了となります。

第27日目 ムルマンスク入港/下船

朝、ロシアの戦略的に重要な港で、ロシアの砕氷船艦隊の本拠地であるムルマンスク入港で伝説の北東航路の旅は終了となります。ロシアの入国と通関を終えた後、北東航路の感動を胸に、エクスペディション・スタッフや乗組員に別れを告げて下船です。その後、空港及び市内中心部のホテルまで無料でお送りいたします。